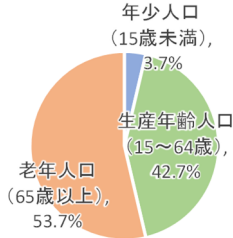


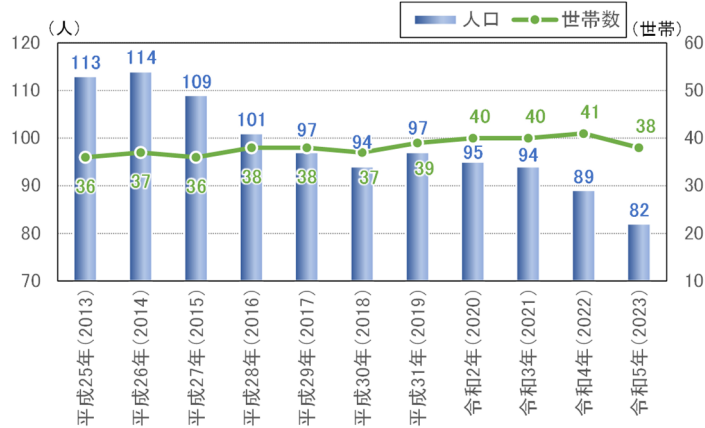
釜屋 (かまや)

人口・世帯数等 (令和5年4月)	
人口	82人
世帯数	38世帯
高齢化率	53.7%

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立地 集落の南側は山が迫り、北側を日本海に面した小さな農漁村である。田畑は少なく、棚畑が山頂まで連なる。集落の北側を国道178号が走り、北流する釜屋川を挟んで家屋が密集する。

地名由来 「かま」は塩釜・塩たきの製塩に由来し、「や」は谷を意味するが不明である。(「たじま地名考」日本海新聞)

歴史等 近世初期頃に2km谷に入った奥(通称ダンの地)から移住して来て集落を成したというのが不詳。近世の釜屋村は、豊臣政権下では太閤蔵入地(豊臣氏の直轄地)で、江戸時代には、慶長10年(1605)旗本宮城氏知行、正保元年(1645)幕府領、寛文8年(1668)豊岡藩領、享保12年(1727)からは幕府領となった。家数は宝暦10年(1760)29、嘉永元年(1848)28。天保5年(1834)の『但馬国郷帳』(天保郷帳)の村高は6石余。文化10年(1813)、当村と諸寄村とで鬮網論争があった。久美浜と鳥取を結ぶ浜街道が集落の南側を通り、一里塚にあったとされる道標が残っている。

明治22年(1889)西浜村の大字となり、昭和29年(1954)からは浜坂町の大字となる。明治24年(1891)の戸数31、人口は男61・女74。

これまで把握している文化財

文化財の件数 19件 (うち指定等文化財 0件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等
有形文化財	建造物	建築物	1	0
		石造物	2	0
		工作物・その他の構造物	1	0
	美術工芸品	彫刻	1	0
		絵画	0	0
		工芸品	2	0
		書跡・典籍	0	0
無形文化財		古文書・歴史資料・考古資料	0	0
		音楽	0	0
		演劇	0	0
		工芸技術	0	0
		その他の無形文化財	1	0
民俗文化財	有形の民俗文化財	信仰の場	2	0
		祭具	0	0
		民具	0	0
	無形の民俗文化財	その他の有形の民俗文化財	1	0
		年中行事・民俗芸能	2	0
		民俗技術	0	0
		食文化	0	0
記念物	遺跡	民間説話・俗信	0	0
		その他の無形の民俗文化財	0	0
		散布地・集落跡・生産遺跡	0	0
		古墳・その他の墓	0	0
		城館跡・寺社跡	0	0
	名勝地	街道・古道等	2	0
		戦争遺跡	0	0
		その他の遺跡	1	0
		山岳・高原・丘陵	0	0
		海岸・海浜・島嶼	0	0
動物・植物・地質鉱物		河川・滝・溪谷・湖沼	0	0
		公園・庭園	0	0
		その他の名勝地	0	0
動物・植物・地質鉱物		動物	0	0
		植物	0	0
文化的景観		地質鉱物	2	0
		生活・生業・風土により形成された景観地	1	0
伝統的建造物群		宿場町・城下町・農漁村等	1	0



釜屋三柱神社の煉瓦堀



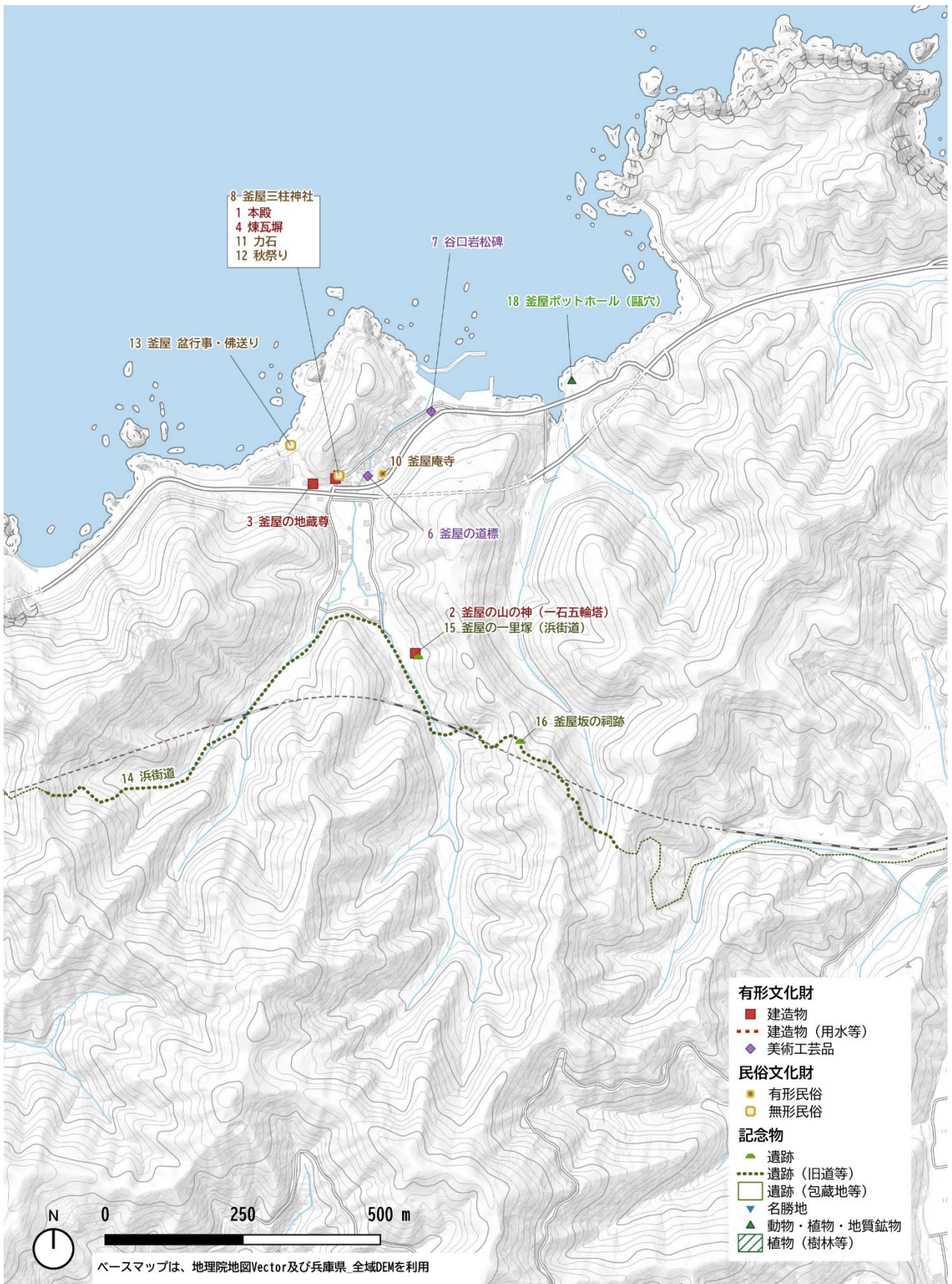
釜屋の道標



釜屋ポットホール(甌穴)

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

3-03 釜屋

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
建築物	1	釜屋三柱神社本殿	サザエ、アワビなどの飾りがみられる。
石造物	2	釜屋の山の神 (一石五輪塔)	大石の上に位置する一石五輪塔。文字はないが、但馬国絵図で一里塚とされている場所と思われる。地元では「山の神さん」と呼んでいる。『兵庫縣神社誌』には釜屋山神社（近代社格は無格社）とある。
	3	釜屋の地藏尊	釜屋集落の西に位置し、海側の墓地の入り口にブロックで囲まれた地藏堂がある。地藏尊4体と五輪塔の一部が祀られており、盆行事として仏送りなどが行われる。
工作物・ その他の 構造物	4	釜屋三柱神社の煉瓦塀	明治時代、現在の JR 山陰本線の建設工事が行われた際に、居組-諸寄間にある三つのトンネル工事の飯場が設けられ、資材の煉瓦が船で運ばれた。トンネル完成後の明治 45 年（1912）頃、工事関係者が世話になった村へのお礼として、残った煉瓦で三柱神社に塀を造り、寄進したとされる。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	5	釜屋庵寺の木像	釜屋庵寺内に安置されている木造。詳細は不明。
工芸品	6	釜屋の道標	釜屋の浜街道と村への分岐点に建てられていた小さな石で、「右 はま坂ゆしま道」とある。古道を西から東に向かう旅人への道標である。現在は村中に置かれている。大水の際に、谷の奥から村中まで流れてきたという。
	7	谷口岩松碑	釜屋集落の東の入口に位置する。「谷口岩松氏碑」。谷口岩松氏は旧諸寄区長と思われる人物。大正～昭和の村会議員に名前がある（『西濱郷土誌』）。同氏の功績を称えて建立された碑。

■ 無形文化財

分類	番号	名称	概要
その他の 無形文化財	8	漁業（松葉ガニ、ホタルイカなど）	町内には浜坂港、諸寄港、釜屋港、居組港、三尾港（大三尾・小三尾）の漁港がある。新温泉町での代表的な漁法は「沖合底引き網漁」で、9月から翌年5月末まで漁を行い、松葉ガニやホタルイカ、ハタハタ、エビ、カレイなどが水揚げされる。

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	9	釜屋三柱神社	祭神は須佐之男命。創立年月は不明であるが、元禄 5 年（1692）に社殿を再建している。明治 6 年（1873）10 月に村社に列せられる。境内社には、稲荷神社（保食神）がある。
	10	釜屋庵寺	所在は確認できるが、詳細は不明。
その他の 有形の 民俗文化財	11	釜屋三柱神社の力石	力石は、古くは罪の重さを決める手段の一つとして用いられていたが、次第に石を持ち上げると願いが叶うという「石占い」として、神社の境内に置かれるようになった。この力石を持ち上げる行事は、昭和初め頃まで町内各地でさかんに行われていた。釜屋三柱神社の階段脇に置かれている。

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・ 民俗芸能	12	釜屋三柱神社秋祭り	10 月 19 日に行われる。
	13	釜屋 盆行事・佛送り	8 月 14・15 日に浜辺で行われる。

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
街道・古道等	14	浜街道	歴史的には「因幡道」「湯島道」とも呼ばれ、豊岡から鳥取間を結ぶ。江戸時代の浜街道を「古道」、明治時代の浜街道を「旧道」と呼ぶ。ルートはほぼ現在の国道178号に沿い、道幅は街中で約2間、平地は1間、山中では約半町であった。浜坂村・森秀助の『出雲紀行』や但馬国美含郡轟村・細田方斎の『因幡行日記』などの紀行文、伊能忠敬測量日記（第5次）などに浜街道が使われた記録が残る。久美浜代官が領内巡検のために浜街道を使ったことや、庶民も浜街道を使って往来していたことも知られる。
	15	釜屋の一里塚（浜街道）	国絵図によると字「山の神」付近と思われる。現在一石五輪塔が残る。
その他の遺跡	16	釜屋坂の祠跡	釜屋坂切通しの平坦部から釜屋へと下る手前に残る小さな四角い台座。かつてはここに祠があり、草鞋を供えていたという。旅人の通行安全と便宜を図ったものと思われる。

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
地質鉱物	17	海金剛	諸寄湾から釜屋湾まで1kmの外海岸は、凝灰角礫岩の断崖が60～80mの高さで続き、散在する小島群を含めて海金剛と呼んでいる。釜屋港の東側から諸寄港の西側までが環境省の「海域公園」に指定されている。玄武岩の溶岩火山砕屑岩を主とする礫岩からなる。波食棚や波食崖、海食台が多くみられる。動植物の生息に適した複雑な地形をしており、海中生物では、タマイタダキ等の紅藻類や、ウメボシイソギンチャク類が岩肌にみられる。ササノハベラなどの色とりどりの魚類も豊富に生息している。
	18	釜屋ポットホール（甌穴）	岩棚にあった石が、波の力で回転し、岩を削って穴が開いたものをポットホール（甌穴）という。大ぶと（巨人）さんの足跡との伝説があり、地元では巨人の足跡と呼ばれている。釜屋ポットホールは右足跡とされ、居組の妙見さん裏の海岸に巨大な左の足跡（今は分からない）があり、この間を一跨ぎに歩いたという。

■ 文化的景観

分類	番号	名称	概要
生活・生業・風土により形成された景観地	19	釜屋港	町管理の第1種漁港（利用の範囲が地元の漁業を主とするもの）。

■ 伝統的建造物群

分類	番号	名称	概要
宿場町・城下町・農漁村等	20	釜屋集落	『但馬ランドスケープ広域計画報告書』では主要な漁村の一つとしてあげられている。